

「健全」の成立とその展開

肖 江 楽

1. はじめに

これまで、「健全」を集中的に考察する論文は多く見受けられないが、主要なものとしては、半沢洋子と鈴木敏夫の研究に提起されたことがある。しかし、上記の考察では、「健全」の成立、語の定着、新概念の誕生、中国への導入及び意味の拡大など、という課題が依然として残る。従って、本稿はこれらの疑問点を念頭に置きながら、訳書『健全学』と原書『gezondheidsleer』を取り上げ、そのオランダ語に対応する日本語の用例分析を通じて、「健全」がどうやって訳出されたのか、いつ中国に導入されたのか、その意味が中国でどんな変化をし、現代中国語に至ったのかを、調査することにした。

2. 「健全」の出自

辞書記述はすべて正しいわけではないが、それによって、「健全」の語誌をある程度概観でき、また、重要な調査手がかりになりうる。そこで、調査に当たって、まず現行の大規模な辞書における「健全」の記述を確認する。

2. 1 『日本国語大辞典』（第2版）における「健全」

（下記では、『日国』と呼ぶことにする）

（1）からだに悪いところがなく丈夫なこと。器官の機能などが正常であること。健康であること。また、そのさま。達者。

＊健全学〔1867〕〈杉田玄端訳〉例言「蓋し『ゲソント』は無病健全の義」

＊医語類聚〔1872〕〈奥山虎章〉「Eupeptic 健全消化」

＊日本の下層社会〔1899〕〈横山源之助〉一・一四「群れる児童について健全の容貌を有せるものを見出さんと苦みたれども得ざりき」

＊春潮〔1903〕〈田山花袋〉一六「『奥様も御健全ですかね』〈略〉と自分の聞いたのは、もう麦酒の三罎も明けて、互にほんのりと酔ったところである」

＊吾輩は猫である〔1905～06〕〈夏目漱石〉二「内臓を運動させれば自然と胃の働きが健全になる訳だから」

（2）物事の状態や考え方などが正常でかたよっていないこと。安定していて堅実なこと。また、そのさま。

＊想実論〔1890〕〈石橋忍月〉二「健全の思、健全の詞感に随って現はれ念に随って変ず」

＊社会百面相〔1902〕〈内田魯庵〉新詩人「唯だ僕の極（ごく）健全な人生観を十

分に見せる積りだ」

＊田舎教師〔1909〕〈田山花袋〉六「思想も健全で、清三のやうにセンチメンタルの処はない」

＊公職選挙法〔1950〕一条「もって民主政治の健全な発達を期することを目的とする」

語誌

(1) 漢籍に用例は見えず、日本では举例の「健全学-例言」から、オランダ語 gezond の訳語に使用したことがうかがわれるが、主な蘭日辞書にその訳語は見えない。

(2) 「改正増補和英語林集成」(一八八六)には「健全学 The science of health, hygiene」があり、「漢英対照いろは辞典」(一八八八)、「言海」(一八九一)等にも収録された。

(3) 一方、明治一〇年代に類義の「衛生」「衛生学」が用いられ始め、二〇年代に一般化するに及んで、「健全学」に代わって「衛生学」が用いられるようになり、「健全」は次第に(2)のような精神的あるいは抽象的な意味で用いられるようになった。→「えいせい(衛生)」の語誌。

『日国』により、「健全」は、1867年に成立した杉田玄端訳『健全学』を出典とすることが分かる。その原義は「健康」と同じである。1890年になると、「健全」は新たに「物事の状態や考え方などが正常でかたよっていないこと。安定していて堅実なこと。また、そのさま。」という意味が付与された。また、語誌の記述に注視すると、「健全」は漢籍に初出用例が確認できなかったため、近代成立した新漢語であろうと仮定することができる⁽¹⁾。

2. 2 『漢語大詞典』における「健全」

『漢語大詞典』(1986)の「健全」には、次のように見える。紙面上の関係で、すべての用例掲載は割愛するが、ここでは初出とされるものだけを下にあげる。(後ろの日本語訳及び文献年代は筆者による)

(1) 謂身体或精神健康而没有缺陷。(体或いは精神は健康である)

①艾蕪『人生哲学的第一課』(1935)二：“在学校的期間，我愛踢足球，近来又几乎走了两个月的山路，足腿实在發育得健全的。”

(2) 謂事物完善而没有欠陷。(物事の状態や考え方などが正常でかたよっていないこと。)

②胡采『<在和平的日子里>序』(1959)三：“在建設初期的建設工地里，却暫時还缺乏这样一支各方面都很堅強很健全的隊伍。”

(3) 使完善；使完備。(完備させる)

③胡耀邦『最好的懷念』(1983.12)：“我們及時地提出整黨，就是為了發揚我們黨

的優良伝統，健全党的政治生活。”

これを見ると、『漢語大詞典』における「健全」の意味記述(1)と(2)は『日国』のものと一致し、(3)は中国語にしか存在しない用法であることがわかる。初出年代を見ると、日本側に使われる「健全」は中国語文献より遥かに早かった。ただ、『漢語大詞典』はほとんど洋学資料と英華字典を使わないし、見出し語でも用例でも近代語を無視または軽視している傾向が顕著であるといった指摘がある⁽²⁾。すると、試しに『漢語大詞典』の用例収集の足りない部分を補足できると言える『近現代辞源』(2010)を引くと⁽³⁾、

1903年《心理学教科書》第二篇：“幻影由于知識謬誤而成者，雖在心意健全之人，亦所不免。”

のように、比較的早い段階で使われた「健全」を発見した。中国側辞書に掲げられた最も古い「健全」の用例よりもさらに古いものがあるかどうかを調査するには、語料庫在線や、申報データベース、中央研究院漢籍データベース、北京大学中国語言学語料庫を利用しながら検索した。今回、筆者が調査した範囲では、中国側における「健全」は『近現代辞源』に記載されたものを初出とし、日本側の用例よりかなり遅かったため、近代日本から入ってきた新漢語であると判断した。

3. 「健全」の成立

『健全学』の序文には、「健全」の語義解釈と本書命名の事情について次のように記されている。

本書ハ英国の医官「ロベルト・ゼエムス・メン」の著す所にて、其国文を持て記せるを荷蘭の医人「イ・ルデ・ブロイン・コプス」其邦語小訳し自己の見識なる所を以て、其不足を補ひ、尚了解し易くらしむるが為に注釈を加へたるもの者なり。

原書は「ゲソンドヘイドレール」と名くる書なり、しかし、「ゲソンド」は無病健全の義、「レール」は学科の義なる、故に今之を訳して「健全学」と題す（下線は筆者により）。

下線の部分をみると、「ゲソンドヘイドレール」は原書『Gezondheidsleer』の片仮名表記で、その意味が『健全学』であることがわかる。同様に Gezond の片仮名表記「ゲソンド」の意味は「健全」で、Leer の片仮名表記「レール」の意味は「学」であることが推察される。上記の訳語対応関係を例証するために、当時活用される蘭和辞書に確認し、その結果を【表1】に示しておく。

【表 1】 蘭和辞書における訳語の収録

| 辞書 | Gezondheid | Gezond | Leer |
|-------------|------------|-------------------|--------------|
| 訳鍵 1810 | 康健 | 康健、快復、贈遺 | 階梯、革、教、学、知せる |
| 増補改正訳鍵 1857 | 康健 | 康健、快復、贈遺、 壮ニスル | 階梯、革、教、学、知せる |
| 和蘭字彙 1855 | 壮ナル事 | 壮ナル、無病ナル | 教へ |
| 三語便覧 1857 | ゲソンドヘード | ゲソンド | なし |

【表 1】を見ると、蘭和辞書における Gezondheid の日本語訳は従来の漢語「康健」を用いて、対応したことが分かる。杉田玄端が翻訳するに当たって、オランダ辞書の訳語を踏襲せず、自ら新に訳語を創出して対応した場面がある。以下では『Gezondheidsleer』で拾っていたオランダ語に対応する日本語を抜粋して、その対応関係を考察してみたい。

(1) Gezondheid en ziekte

Gezondheid is de natuurlijke, behoorlijke samenwerking van de afzonderlijke deelen van het ligchaam. Wanneeral de werktuigen die wij nagingen, zoodanig werken als zij bestemd zijn te werken, dan is er gezondheid. Dan zijn ergeene onaangename of pijnlijke gewaarwordingen, alles gaat gemakkelijk, er is ge. (74 頁)

健全及び疾病の論

健全とは身体諸部にある天然適宜の機関一和して操作し相互影に一標的に達せんとするを云。我輩の既に論じたる諸器其当然の官能を操作するときは、即ち健全にして、此の如き時には決して不敵意若しくは苦楚の感覚なく。(健全学巻四・中編・百六)

上記の対応関係を見ると、Gezondheid の訳語は「健全」であることがわかる。その意味は「健康」と同じである。それ以外に、下記の文脈にも「健全」が見える。

(2) Het kan zijn dat gezonde personen een tijd lang ongestraft het hevigste vergif inademen, tot dat de kracht van hun ligchaam begint te verminderen. (78 頁)

或いは健全無病の人猛毒を吸入すれども、久しく害を受くることなく、体力を減耗するに至て始めて病を発することあり。(健全学巻四・中編・百十二)

(3) Een enkele der afscheidingsorganen kan voor een tijd ophouden om behoorlijk te werken, en dat kan genoeg zijn om een ophooping van het vergif in het bloed te doen plaats hebben, die ten laatste ook de werking der gezonde deelen zal benadeelen. (79 頁)

一個の分泌器一時其機關を停止することあれば、血中に毒を蓄積するに足りて遂に健全部の機關も亦害せらるゝに至るべし。(健全学卷四・中編・百十三)

用例(2)は、「健全+無病」という並列關係を持つ語を組み合わせ、gezondeに対応した。用例(3)は「健全」の後ろに接尾語「部」を付け加えたことが見受けられる。

(4) Maar om dit alles te verkrijgen, moet men eenige regels en voorwaarden na komen, wil men gegronde hoop voeden om ongestoorde gezondheid te blijven behouden. (85 頁)

但し其諸件を悉く熟知して専ら健全を保固せんと願欲する者は、宜く二三の法則及び予備の法を順守するを要とすべし。(健全学卷四・中編・百二十)

(5) Bij eenvoudige geelzucht worden sommige deelen der gal in het bloed behouden, zonder eenige ernstige verstoring der gezondheid. (67 頁)

単症の黄疸に於ては少量の胆汁血中に蓄積すと雖、健全を防ぐることなし、(健全学卷三・中編・九十八)

(6) Men onthoude wel dat bloedis een voedende stroom; waar één van deze twee vereischten ontbreekt, daar houdt de gezondheid op. (108 頁)

若血にして此栄養流動の二能一を缺くることあれば、直に健全を損するに至るなり。(健全学卷五・下編・百五十三) 十三)

用例(4)「健全を保固せん」、用例(5)「健全を防ぐる」、用例(6)「健全を損する」のように、「健全」が名詞的に使われている。それ以外に、「健全+なる」という用法は用例(7)と(8)に確認できる。

(7) Maar zal men beveiligd zijn tegen die gevaren en ziek ten die zoo dikwijls reeds bij de geboorte zijn ingeplant, en die als treurig erfdeel van ongezonde ouders zijn overgeno men? (159 頁)

但し或は人間に既に出生の時より得て且つ健全ならざる両親より遺傳せる……中略(健全学卷六・下編・二二四)

(8) a. de vezels van het hart moeten krachtig en gezond zijn. (80 頁)

イ. には心臓の纖維強制にして健全なるを要し(健全学卷四・中編・百十五)

(1) から (8) までは、名詞か形容動詞かを持つ「健全」でオランダ語に対応したが、下記では別の訳語が用いられたことが見受けられる。

(9) Dit zijn de verschijnselen, waardoor men eene gezonde werking van al

de deelen kan onderkennen;dit zijn de kenteeken van gezondheid. (77 頁)
右に挙げくる所の所現象は諸部の平康を徴知すべきものにして、即ち、健全の徴候なり。(健全学巻四・中編・百十)

(10) De longen van een gezond volwassen persoon,voeren in 24 uur niet minder dan 19 kubiek voet koolzuur. (130 頁)

強健なる大人の肺臓は二十四小時中に炭酸を排除すること、立方尺十九個より少なからず。(健全学巻六・下編・百八十四)

(11) “Doch al deze toelatingen van buitenlucht,” zal men zeggen, “mogen heel gezond zijn,aangenaam zijn zij niet,vooral in het najaar en den winter; en hoe zal men dan’s avonds als de blinden gesloten zijn?” Hierin kan ook op verschillende wijze te gemoet gekomen worden. (137 頁)

右の如くして外気を室中に通過するは秋冬の間殊に難渋なりと雖、養生の為には甚だ宜しくるべし、然ども晩に至りて窓戸を悉く閉じるときは如何と、曰く、此に於ても亦諸種の方策を以て之を扶佐すべし。(健全学巻六・下編・百九十四)

(12) En het is niet alleen voor de goede werking der longen dat die beweging in de open lucht noodzakelijk is; zij is het evenzeer voor de gezonde werking der huid. 139 頁

只に肺臓に好機括を催進するのはならず、且皮膚の機関にし、亦利益あるなり。(健全学巻六・下編・百九十六)

(13) In vele steden kwam die kwaal standvastig in dezelfde buurten terug, doch met zichtbaar mindere verwoesting, zoodra men op eenigzins uitgebreide schaal gezondheids-maatregelen had aangewend. 158 頁

此病許多の都邑に於て必ず人家比々密接する処に起れり、然るに少しく意を用いて護身の法則を行ひしときは、其流行著しく減却せり、(健全学巻六・下編・二二二 第十三編)

上記の訳し方を見ると、gezonde と gezondheid の日本語訳は、「健全」もあれば、「平康」、「強健」、「養生」、「利益」、「護身」などの訳語もある。やはり、これらの訳語は文脈によって、選出され当てられたものであらうと考えられる。

4. 辞書における「健全」

4. 1 英和辞書における「健全」

ここでは、【表1】に見られる Gezondheid、Gezond をキーワードとして、H. Picard の英蘭蘭英辞書 (1857) に基づいて得られた英語 Health、Healthy、Hygiene を導き出す。そして、これらを手掛かりとして、いくつかの代表的な英和辞書を調査した結果を【表2】に掲げておく⁽⁴⁾。

【表 2】英和辞書における「健全」

| 辞書 | Health | Healthy | Hygiene |
|---------------------------|-----------------------|-------------------------------------|-----------|
| 英和対訳袖珍辞書 1862 | 健康、安全 | 健康ナル、清浄ナル | 身体ヲ健康ニスル術 |
| 英和対訳袖珍辞書 1866 | 健康、安全 | 健康ナル、健康ニスル | 身体ヲ健康ニスル術 |
| 大正増補和訳英辞林 1871 | 健康、安全 | 健康ナル、健康ニスル | 身体ヲ健康ニスル術 |
| 附音挿図英和字彙 1873 | 健康、安寧、平安 | 健康ナル、無病ナル | 健康、健康学 |
| 附音挿図英和字彙 1884 | 健康、安寧、平安、無病、 安否 | 健康ナル、無病ナル、壮健 ナル、恙ナキ、安寧ナル | 健康、健康学 |
| 英和対訳辞典 1885 | 健康、安寧、平安 | 健康ナル、無病ナル | なし |
| ウェブスター氏新刊大辞書 和訳字彙 1888 | 健康、安寧、平安、無恙 | 健康ナル、無病ナル、恙ナ キ、身体ニ益アル、健康ニ 益アル | 健康、健全学 |
| 明治英和字典 1884-1889 | 健康、壮健、健全、平安、 安寧、無恙 | 健康ナル、壮健ナル、身体 ニ益アル、健康ニ益アル | 健全学 |
| 増訂挿図和訳英字彙 1892 | なし | 健康、壮健、健全、平安、 安寧 | 健全学、養生学 |

以上の辞典における対訳関係をみると、1880 年以前の英和辞書に「健康」がよく使われたことに対して、「健全」は見当たらなかったことがわかる。1888 年に、『ウェブスター氏新刊大辞書和訳字彙』に「健全+学」という訳語が収録されていたが、「健全」は見えなかった。1892 年の『増訂挿図和訳英字彙』になると、ようやく「健全」が用いられるようになったことが見受けられる。

4. 2 日本国語辞書における「健全」

近代成立した漢語「健全」は、いつ頃国語辞書に登場したのか、そして付与された新しい意味がいつ収録されたのか。下記の【表 3】を参照されたい。

【表 3】日本国語辞書における「健全」

| 辞書 | 見出し語 | 意味解釈 |
|--------------------|-----------|--------------------------------|
| 言海 1889 | 健全 | 身、スコヤカニシテ、病無キヲ |
| | 健全学 | 身ノ養生ノ学 |
| 日本大辞書 1892-1893 | 健全けんぜん | 漢語。タツシヤ。＝丈夫(身ノ) |
| | 健全学けんぜんがく | 身ノ養生ノ学。英語 hygiene ノ対訳。 ＝衛生学 |
| 和漢雅俗いろは辞書 1889 | 健全けんぜん | すこやか、たつしや |
| | 健全学けんぜんがく | (養生の学をいふ) |
| 日本大辞林 1894 | 健全けんぜん | たつしや。すこやかなるをいう。 |

| | | |
|--------------------|-----------|---|
| 帝国大辞典 1896 | 健全 | 身体などのすこやかなるをいう、達者、丈夫などいうにおなじ |
| | 健全学 | 身ノ養生ノ学問。英語の Hygine の対訳なり、衛生学というにおなじ |
| 日本新辞林 1897 | 健全 | 身体などのすこやかなること、達者、丈夫。 |
| | 健全学 | 身ノ養生ノ学をいう。英語 Hygine の対訳、衛生学、養生学。 |
| ことばの泉 1898—1899 | 健全けんぜん | すこやかなること。たっしや |
| 新編漢語辞林 1904 | 健全けんぜん | タッシャデ、スコシモコトカケノナイ |
| 辞林 1907 | 健全 | ①身体のすこやかなること。達者。丈夫。②常態を失せずしてよく活動すること。感情に偏せずして精力すこやかなること。「一なる思想」 |
| | 健全学けんぜんがく | 身の養生の学問。衛生学。養生学 |
| 大辞典 1912 | 健全 | 漢語。タッシャ。＝丈夫(身ノ) |
| | 健全学 | 身ノ養生ノ学。英語 hygiene ノ対訳。＝衛生学 |
| 大言海 1935 | 健全 | (一) 身、スコヤカニシテ、病無キコト。(二) 穩健ニシテ、偏僻ナラヌコト。「健全ナル議論」 |
| | 健全学 | 収録なし |

【表3】から見て分かるように、1889年に、「健全」が『言海』に収録され、1904年の『新編漢語辞林』にも確認できた。1907年に至ると、金沢庄三郎編『辞林』は新たな意味用法が付け加えられた「健全」を収録したことが分かる。また、「健全学」は1907年の国語辞書に出現したが、1935年の『大言海』に記載されなかった。なぜこのような現象が起きたのか、多分「衛生学」という語の使用が一般化され、人々の日常生活に受け入れられたため、「健全学」に代わったからであろう。

5. 「健全」の新しい意味

『日国』の意味解釈(2)では、「物事の状態や考え方などが正常でかたよっていないこと。安定していて堅実なこと。また、そのさま。」と記述されている。その初出用例は1890年刊行された『想実論』のものをとりあげているが、筆者は日本語歴史コーパスを利用して検索したところ、『日国』の新しい意味を持つ「健全」の出典よりさらに早く使われた用例を発見した。

(14) 又若吾人体軀ノ健全ヲ欲セバ、必ズ生理上ノ規法ニ服セザル可カラザルガ

如ク、苟モ社会邦家ノ平和ト健全トヲ保維セント欲セバ、必ズヤ其制度ヲシテ此
高大正義ナル

国民之友（1）1887 人の権理（一）池本吉治（訳）/ヘンリー・ジョージ（作）

用例（14）の「健全」は、体の健康を指すのではなく、国家の安定という意味で、
『日国』で取り上げられた初出よりやや二年ほど早かったものである。

（15）国家ノ事亦タ然リ苟クモ内ニ恃ム所強クシテ国力健全ナラバ偶マ外患ノ憂
アルモ毫モ畏怖スルニ足ラザル也

国民之友（13）1887 国家の大患は外にあらずして内に在り 吉田熹六（作）

（16）凡そ一国を導き、一國を動かし、一國をして恒に新鮮ならしめ、健全なら
しむるものは、少数者の力なるか。

国民之友（35）1888 同志社学生に告ぐ 徳富蘇峰（作）

（17）富の力は或はヒマラヤ山を夷けて、平地となすことを得べく、太平洋を埋
めて大陸となすことを得べし、然れども一國をして新鮮に、健全に、活力あり、
生命あるものとならしむること能はず、而して一國をして斯くならしむるは、即
ち精神的の文明に存するものなり

国民之友（35）1888 同志社学生に告ぐ 徳富蘇峰（作）

用例（15）「国力健全ナラバ」、用例（16）「一國を……健全ならしむるもの」、用例
（17）「一國を……健全に」の用例も、「健全」の新たな使い方「国家の安定」が用い
られた意味である。一方、現代日本語における「健全」の使い方がさらに豊富になり、
下記用例（18）「健全化」と用例（19）「不健全」のような用法が用いられている。

（18）財政健全化の観点ではなく、経済の不均衡や格差の是正を前面に掲げた増
税や社会改革の議論を、政治家が責任を持って進めるべきだ。

朝日新聞 2021 年 12 月 26 日 朝刊

（19）犯罪か黙認かという関係のあり方は不健全で、対話もなく黙認し、いきな
りやめなさい、というのには気持ち悪さが残ります。

朝日新聞 2021 年 12 月 26 日 朝刊

6. 日本語から中国語へ入ってきた「健全」

「健全」は近代日本で成立した新しい漢語で、いつ中国に導入されたのか、どのよ
うに受容されたのか、さらに中国側における語の新しい意味がいつ用いられたのかを、
検証する必要があると考えられる。ここで紹介したいのが、「申報全文データベース」
である。このデータベースは 1872 年 4 月 30 日創刊から、1949 年 5 月 27 日廃刊まで
の新聞がすべて収録されており、近代中国語の変動、日中語彙の交流時期をカバーで

きる絶好の資料である。以下、申報データベースを利用して、調査した一部の結果を次に示しておく。

(20) 英儒洛克有言、地理與文明之關係一如体魄之與精神、体魄健全而後精神能活發、地理適宜而後文明始發達遑哉。 1904. 7. 15 申報上海版

(21) 又益以商業商品簿記諸学分第一第二第三学年三級三年乃卒業至商学生徒之資格則以年在十五以外二十以內身體健全、資質聰敏…… 1905. 1. 7 申報上海版

筆者が調査した範囲では、『申報』に収録された「健全」が最も早い記述は用例(20)にあるものである。その意味は体の健康を指している。

(22) 此為憲政之胚期猶人在胞胎中。其初塊然之一物耳。月月改變其形相。至十月則形相畢具。而後乃達生焉。不然則流產而已而欲保產期之。健全則最不可不注重於此胚期中也。 1906. 9. 6 申報上海版

(23) 乃以東西立憲国健全圓滿之法理。責若輩以盡職。不亦冤乎。 1907. 6. 25 申報上海版

(24) 所適從。令商工業者於貨物價自有變動之外、又必常注意於貨幣行情之變動。貿易者有變為一種投機事業之勢。內外商業欲觀其健全之發達。 1907. 12. 11 申報上海版

(25) 上月二十三日大阪毎日新聞云、中国内外政策之支離破裂雖尤甚於日本、然而猶有似是者中国民論之健全不及日本甚遠…… 1908. 1. 4 申報上海版

一方、1906年になると、(22)から(25)までのような新意味を持つ「健全」が中国の文献に多く出現したことが見受けられる。20世紀初期は、ちょうど中国留学生による日本書物の翻訳が盛んに行われた時期であったため、その時に新しい意味を持つ「健全」が中国語にも多く持ち込まれたというように考えられる。

7. 中国における「健全」の意味拡大

中国語における「健全」の使用は、およそ1900年前後に始まり、その後も使用し続けたが、その使い方が近代日本から入ってきたもののままであった。しかし、現代中国語における「健全」の使い方がさらに拡大され、ここで任意にいくつかの用例を拾い出して、吟味することにする。

(26) 建立和健全獎勵制度，是做好獎勵組織工作的必要条件。
『工業企業管理綱要』 1963. 4. 1 李鉄城等ら五人 北京工業出版社

(27) 国家標準総局、国务院有関部門、応建立和健全標準化科学研究和情報資料機構。
『標準化管理条例』 国务院 1979. 9. 30 新華月報 人民出版社

(28) 各省、市、自治区要在工業集中的城市建立和健全產品質量監督檢驗機構，
受同級標準化管理部門領導。
『標準化管理条例』 国务院 1979. 9. 30 新華月報 人民出版社

上記「健全」の用例を簡単に解釈すると、(26)「奨励制度を設けて、完備する」、(27)「標準化科学研究及び情報資料機関を設けて、完備する」、(28)「產品質量監督検査機関を設けて、完備する」という意味になる。このような動詞的に使われている「健全」は、日本語に見られなく、中国語ならではのものである。

8. まとめ

「健全」は 1867 年に杉田玄端訳によって創出された漢語である。当時、Gezond、Gezondheid に対応する日本語訳は、「健全」のほか、「養生」、「強健」、「護身」、「平康」などが見受けられる。成立したばかりの「健全」は「健康」と同じ意味で、その後は「物事の状態や考え方が正常である」という方面にも用いられ、さらに「健全＋化」、「不＋健全」などの使い方が現代日本語として使われている。一方、「健全」が中国の文献に出現した時期が遅かったが、この後日本語に見られない、新たに動詞的な使い方が生まれた。こうしたオランダ語からの訳出、日本語での定着、中国語への流入、という近代漢語の伝播の流れは、「健全」の語誌的調査を通して窺えることができる。

【注】

- (1) 『大漢和辞典』（諸橋轍次著）を調べたが、「健全」の古典用例は見当たらなかった。
- (2) 陳力衛（2011）の論文を参照されたい。
- (3) 大塚秀明（2011）は『近現代辞源』によって従来の辞書における、語の初出年の記述を引き上げることができるから、近代新漢語の研究において、初出検索に非常に有用書物であると称讃している。
- (4) 『和英語林集成』初版・再版・三版を調べたが、「健全学」という訳語が見出されたが、「健全」は見当たらなかった。

【参考文献】

- 鈴木敏夫（1973）「江戸時代における養生書の研究—身体運動の養生的価値をめぐって」『北海道大学教育学部紀要』第 22 号
- 半沢洋子（1983）「えいせい（衛生）ようじょう（養生）けんぜん（健全）」『講座日本語の語彙』9
- 南谷直利・北野与一（1999）「「保健」の語誌的研究」『北陸大学紀要』第 23 号
- 陳力衛（2011）「近代日本の漢語とその出自」『日本語学』30
- 陳力衛（2020）「「農奴」概念の成立と展開」『成城大学経済研究』第 230 号
- 肖江楽（2020）「中日近代語彙環流個例研究—「認識」詞義的演變」『高等日本語教育』第 5 号

【調査資料】

『健全学』 国立国会図書館デジタルコレクション所収請求記号 839-155
『Eenvoudige gezondheidsleer』 デジタル資料
<https://www.delpher.nl/nl/boeken1/gview?query=Bruijn+Eenvoudige+gezondheidsleer&page=1&coll=boeken1&identifier=Yy19NrZeFh8C>
『近現代辞源』 黄河清 上海辞书出版社 2010
『日本国語大辞典 第二版』 (小学館、「ジャパンナレッジ」 <https://japanknowledge.com>)
『漢語大詞典第二版』 羅竹風 1986-1993
国立国語研究所 (2020) 日本語歴史コーパスバージョン 2020. 3、中納言バージョン 2. 5. 2
https://pj.ninjal.ac.jp/corpus_center/chj/
申報データベース <http://10.1.30.77.z.library.sh.cn/>
中央研究院漢籍データベース <http://hanchi.ihp.sinica.edu.tw/>
語料庫在線 <http://www.cncorpus.org/login.aspx>
北京大学中国語言語学語料庫
http://ccl.pku.edu.cn:8080/ccl_corpus/index.jsp?dir=gudai

【付記】

本稿は住友財団 2020 年度アジア諸国における日本関連研究助成項目 (財団登録番号 208001)、2020 年度教育部人文社会科学研究青年基金項目 (課題番号 20YJC740070)、2019 年度広西師範大学教育教学改革研究項目 (課題番号 2019JGA11) の研究成果の一部である。